

## 大雪山国立公園

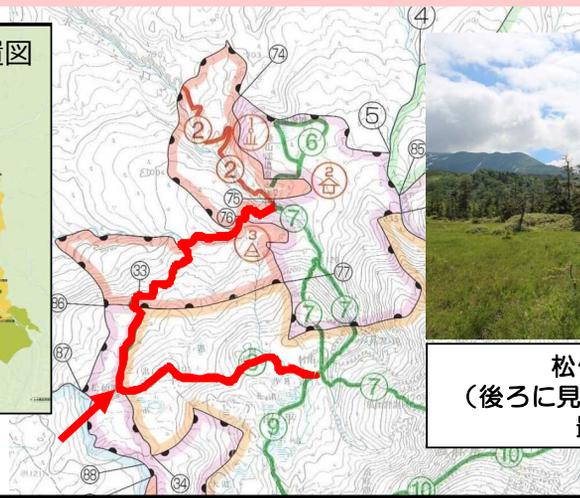
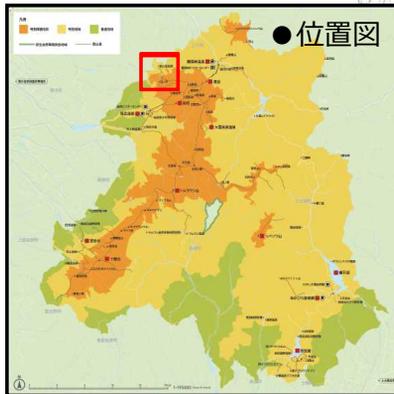
## 松仙園線道路（歩道）

**決定**

路線距離：7.0km

執行者（予定）：環境省

特別保護地区、第1種・第2種特別地域（公有地（道有林））



松仙園二ノ沼湿原  
（後ろに見えるのは大雪山国立公園  
最高峰旭岳）

- 松仙園地区は大雪山国立公園の北西部の利用拠点である愛山溪温泉の南に位置し、溶岩台地上の平坦な地形に形成された、極めて自然性の高い高層湿原が広がっている。
- かつては登山道として利用。ササなどの繁茂により道が不明確となったため、平成18年9月には関係機関が協議の上、通行止め区間として取扱い。
- 一方、大雪山系の山々を間近に見ながら湿原を散策できるルートとして魅力的であるため、地元自治体や山岳会から登山道再開の要望が強い。

事業規模 路線距離：7.0km

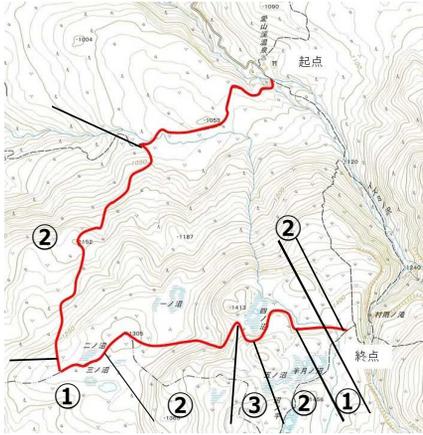


松仙園四の沼湿原



- 松仙園線道路（歩道）は、大雪山国立公園の特色である溶岩台地上に噴出した火山を望むことができる景観を有するとともに自然性が非常に高い湿原をあわせもち、大雪山国立公園の雄大さやその景観の成立経緯を感じることができる公園利用上重要な歩道。
- 地元自治体や山岳会からの登山道再開の要望を契機として、利用による高層湿原への影響を最小限に抑える対策をした上で供用することとしたもの。
- 事業規模は、沼ノ平姿見の池線道路（歩道）事業に接続して、周回する利用を可能とするため、公園計画で定められた全区間とする。

執行者：環境省



### ①木道の敷設 (二ノ沼湿原、雪田植生の区間等)



過去に登山者が植生を踏みつけた跡に、木道の敷設を検討（写真は、有識者よりレンジャー及び請負事業者が助言を得る様子）

### ②チシマザサ等の刈り払い



チシマザサを刈り払い歩道とする。（写真は調査のため、二ノ沼から四ノ沼の間のチシマザサを刈る様子）

### ③ハイマツの伐開



松仙園の中でも特に自然度の高い四ノ沼への影響を回避するため、歩道は四ノ沼内を通さず、赤点線の区間（ハイマツがある）を通す予定。

#### 自然環境への影響

- 極めて自然性の高い高層湿原を通る本歩道の特性を踏まえて次の措置を講じ、自然環境への影響を最小限に抑える。
  - ・チシマザサの刈り払いやハイマツの伐開については、二ノ沼、四ノ沼等の高層湿原への影響を回避又は低減するため、必要最小限の区間とする。
  - ・木道の敷設が必要な場合は、かつて登山道として利用されていた踏み跡が残り、ヤチカワズやミタケスゲ等の代償植生が生育するルート上に敷設する。
  - ・モニタリング調査箇所を設定し、木道の敷設等の登山道の明確化による植生回復効果を計るとともに、歩道の供用による周辺環境への影響の有無を把握。



#### 事業執行後の利用のルール

- 極めて自然性の高い高層湿原を通る本歩道の特性を踏まえて、歩道管理者の権限により、次の措置を講じる予定。
  - ・歩道の供用期間を雪がない期間（7月14日から9月30日まで）とする。融雪期・降雪期は供用しない。
  - ・松仙園登山口から登り一方通行とする。
  - ・松仙園地区に、外部から動植物を持ち込まれないよう、衣服、靴などに付着した種子及び土壌の除去に努めるよう指導。
  - ・ヒグマとの突発的な遭遇を避けるため、クマ鈴又は笛を携帯するよう指導。



# 大雪山国立公園 石狩連峰縦走線道路（歩道）

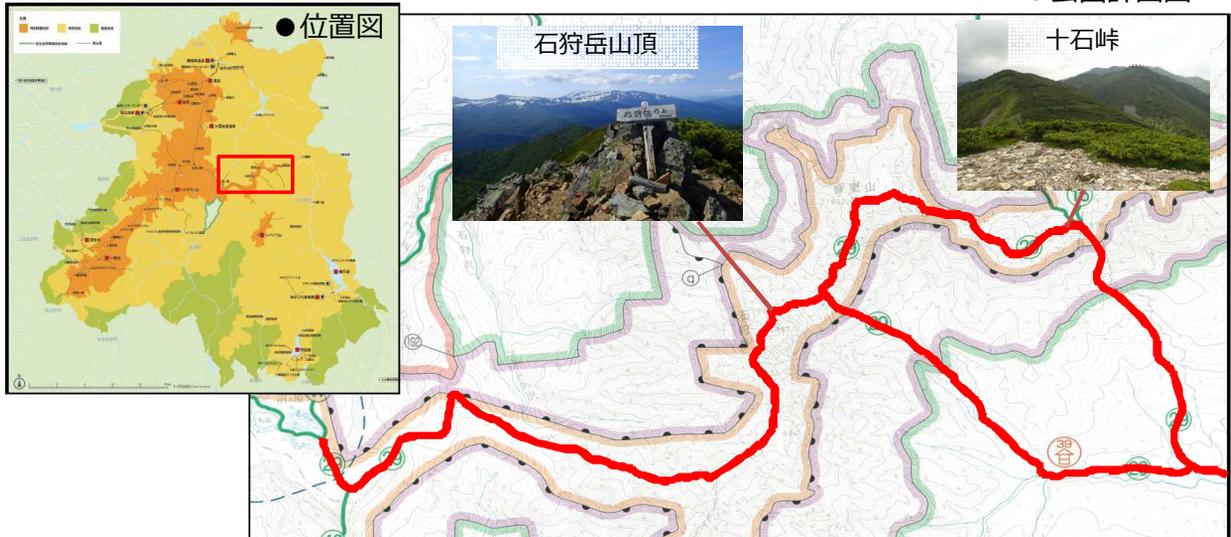
**決定**

路線距離：24.3km

執行者（予定）：環境省

特別保護地区、第1種特別地域、第3種特別地域（国有林）

●公園計画図



- 東大雪地域に位置する石狩岳、ユニ石狩岳、音更山等の山々で構成される石狩連峰の登山道であり、標高は約800m～2,000mに及ぶ。
- 大雪山国立公園の中でも特に奥深く、原始的な環境での登山が楽しめる山域であり、年間登山者数は300～500人程度。

## 石狩連峰縦走線道路（歩道）決定区域図

事業規模 路線距離：24.3km



- 上図の路線には登山道が既に存在し、広く一般利用されていることから、将来的には線的な登山道管理とすることを見据え、既設登山道の総延長を事業規模として決定する。
- 登山道上の主要箇所（黄色○印を予定）に標識を整備予定。

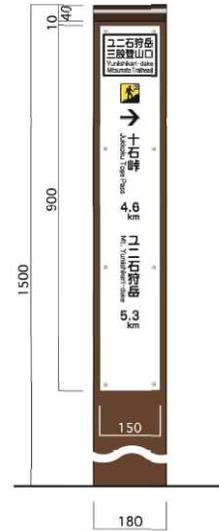
## 標識の整備

執行予定者：環境省

- 平成27年度に策定した「大雪山国立公園登山道管理水準2015年改定版」において設定した5段階の登山道グレード（大雪山グレード）を周知し、利用者に力量に応じた登山を推奨するため、登山口や分岐、グレードの切替点に、国際化にも対応した統一デザインの標識を整備する。
- 土地の改変面積は少ない構造とし、高山植物の生育地を避けて設置することから、周囲の自然環境への影響は小さい。



石狩連峰の大雪山グレード

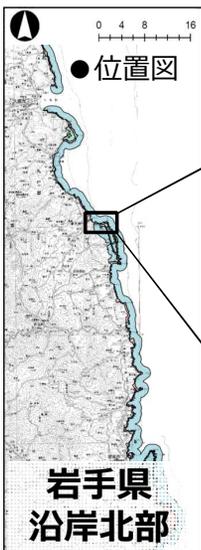


標識詳細図

三陸復興国立公園  
普代浜園地**決定**

区域面積：4.6ha

執行者（予定）：環境省・普代村



第2種特別地域 公有地（普代村）



○夏季、海水浴とキャンプを楽しむ利用者が多数訪れている。東北地方太平洋沖地震による津波により周辺のアカマツ林とともに野営場が流失し、平成27年度に利用施設計画を野営場から園地に改め、復旧整備を行うこととした。主要動線である普代羅賀線道路（車道）に隣接し、海水浴等の利用再開が期待される。

## 普代浜園地決定区域図



## 事業規模

区域面積：4.6ha



○東日本大震災により流失した施設の機能回復のため、環境省がシャワーなどを有する休憩所及び散策園地を整備し、普代村が物販機能を有する休憩所と散策園地を整備する。従前の普代浜野営場は普代川の北側河川敷のみに施設を設置していたが、今回の普代浜園地の計画では、南側河川敷についても休憩所などを設置する計画のため、従前の事業決定規模2.6haから4.6haに敷地面積規模を拡大する。そのほとんどは芝生園地となる。

## 海水浴場施設の復旧（駐車場、トイレ、シャワー）

執行者：環境省

- 被災した野営場跡地に海水浴利用に対応するために必要な駐車場、トイレ、シャワーを整備する。※写真は整備例



駐車場



トイレ+シャワー



園路

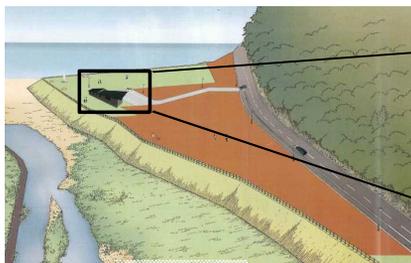


サイン

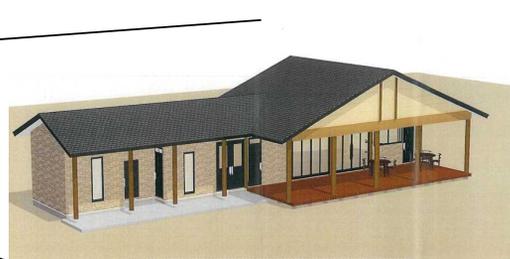
## 休憩所の新設（駐車場、産直施設、トイレ）

執行予定者：普代村

- 環境省が整備する海水浴場施設の川を挟んで対岸に、産直施設を建設する。



全体パース



休憩所（産直施設+トイレ）